

「国立大学法人等の第2期中期目標期間における教育研究の状況の評価結果について」と題して、大学評価・学位授与機構が公表した報告の中で、本学の農学部・農学研究科の研究が、中・四国の農学系の中で唯一、「大きく改善、向上している」と高く評価されました。

----- 評価の詳細(抜粋) -----

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

- 愛媛県単地区の地域活性化を推進するため、県内研究機関と連携し、環境保全型の柑橘作りの普及及び定着に向けた研究拠点を形成している。
- 国際共同研究として、ワーゲニン大学（オランダ）と植物工場に関する研究、ガジヤマダ大学（インドネシア）やボゴール農業大学（インドネシア）と食品機能に関する研究を行っている。
- 科学研究費助成事業、共同研究、受託研究等の外部資金について、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）と第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）を比較すると、受託研究の受入金額は約6億5,100万円から約9億9,300万円、共同研究は約1億2,800万円から約2億1,100万円となっているほか、科学研究費助成事業については、採択率は約42.6%から約47.2%、交付額は約10億5,300万円から約11億400万円へそれぞれ増加している。
- 第2期中期目標期間における学術論文数は平均約169件となっている。また、特許について第1期中期目標期間と第2期中期目標期間を比較すると、出願件数は合計88件から112件、取得件数は合計1件から45件へ増加している。

分析項目 II 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

- 学術面では、特に農業環境・情報工学において卓越した研究成果がある。また、第2期中期目標期間における学術賞の受賞は、63件となっている。
- 卓越した研究業績として、農業環境・情報工学の「オンサイト・リアルタイム細胞分子計測によるスピーキング・セル・アプローチに関する研究」があり、日本生物環境工学会の国際学術賞を受賞している。
- 社会、経済、文化面では、特に水圏生命科学において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、水圏生命科学の「生殖腺は個体成長をコントロールする機能を持つ」があり、この研究成果に基づく魚類養殖の給餌管理法はブリ養殖場で採用されており、魚類養殖の効率化に貢献している。

II 質の向上度

〔判定〕 大きく改善、向上している

1. 質の向上度

〔判断理由〕

- 平成 24 年度に植物工場による安全な食料の安定供給を目的とした植物工場研究センター、平成 25 年度に機能性食品に関する重点研究のための農学部附属食品健康科学研究センター、平成 26 年度に紙産業界の活性化と問題解決を目的とした紙産業イノベーションセンターを設置している。
- 科学研究費助成事業、共同研究、受託研究等の外部資金について、第 1 期中期目標期間と第 2 期中期目標期間を比較すると、受託研究の受入金額は約 6 億 5,100 万円から約 9 億 9,300 万円、共同研究は約 1 億 2,800 万円から約 2 億 1,100 万円となっているほか、科学研究費助成事業については、採択率は約 42.6 %から約 47.2 %、交付額は約 10 億 5,300 万円から約 11 億 400 万円へそれぞれ増加している。
- 学術面では、農業環境・情報工学において卓越した研究成果がある。また、第 2 期中期目標期間において日本生物環境工学会の国際学術賞等を 63 件受賞している。

2. 注目すべき質の向上

- 平成 24 年度に植物工場による安全な食料の安定供給を目的とした植物工場研究センター、平成 25 年度に機能性食品に関する重点研究のための農学部附属食品健康科学研究センター、平成 26 年度に紙産業界の活性化と問題解決を目的とした紙産業イノベーションセンターを設置している。

参考リンク：

国立大学法人等の第 2 期中期目標期間における教育研究の状況の評価結果について
(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 HP)

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kokuritsu/kekka_h28/